

95

午 前

◎ 指示があるまで開かないこと。

(平成 24 年 2 月 16 日 10 時 45 分 ~ 12 時 00 分)

注 意 事 項

- 1. 試験問題の数は 55 問で解答時間は正味 1 時間 15 分である。
- 2. 解答方法は次のとおりである。

各問題には 1 から 4 までの 4 つの選択肢、もしくは 1 から 5 までの 5 つの選択肢があるので、そのうち質問に適した選択肢を(例 1)、(例 2)では 1 つ、(例 3)では 2 つ選び答案用紙に記入すること。

なお、(例 1)、(例 2)の質問には 2 つ以上解答した場合は誤りとする。(例 3)の質問には 1 つ又は 3 つ以上解答した場合は誤りとする。

(例 1)

101 助産業務が行えるのはどれか。

- 1. 合格発表日以降
- 2. 合格証書受領日以降
- 3. 助産師籍登録日以降
- 4. 免許証受領日以降

正解は「3」であるから答案用紙の③をマークすればよい。

答案用紙①の場合、

101	①	②	③	④
			↓	
101	①	②	●	④

答案用紙②の場合、

101	101
①	①
②	②
③	●
④	④

(例2)

102 助産師国家試験の受験資格が規定されているのはどれか。

1. 医療法
2. 学校教育法
3. 母子保健法
4. 保健師助産師看護師法
5. 看護師等の人材確保の促進に関する法律

正解は「4」であるから答案用紙の④をマークすればよい。

答案用紙①の場合、	答案用紙②の場合、
102 ① ② ③ ④ ⑤	102 ① ①
↓	② ②
102 ① ② ③ ● ⑤	③ → ③
	④ ●
	⑤ ⑤

(例3)

103 助産師籍に登録されるのはどれか。2つ選べ。

1. 生年月日
2. 受験年月日
3. 卒業年月日
4. 就業年月日
5. 登録年月日

正解は「1」と「5」であるから答案用紙の①と⑤をマークすればよい。

答案用紙①の場合、	答案用紙②の場合、
103 ① ② ③ ④ ⑤	103 ① ●
↓	② ②
103 ● ② ③ ④ ●	③ → ③
	④ ④
	⑤ ●

1 1995年開催の世界女性会議で採択されたリプロダクティブ・ヘルス／ライツの概念からみた助産師の役割で適切なのはどれか。

1. 支援の対象範囲は初経から閉経までの女性である。
2. 助産師が選択した避妊方法を勧める。
3. 受胎に関する支援は対象者の話を聴くことにとどめる。
4. 暴力被害に遭った女性への相談支援を行う。

2 男女共同参画基本計画における女性への健康支援で正しいのはどれか。

1. 母子保健法に基づいている。
2. 成熟期以降の女性が対象である。
3. 女性の身体的問題に重点が置かれている。
4. 不妊専門相談センターの整備を推進している。

3 性同一性障害の法的な性別変更の条件で正しいのはどれか。

1. 18歳以上である。
2. 未成年の子がいない。
3. 性別適合手術前である。
4. パートナーが同意している。

4 更年期障害に対する治療を行う際、ホルモン補充療法が可能なのはどれか。

1. 脂質異常症の人
2. 乳癌の既往のある人
3. 血栓性静脈炎のある人
4. 子宮内膜癌で治療中の人

- 5 胎児に観察される運動で最初に出現するのはどれか。
1. あくび
 2. 嚥下
 3. 全身運動
 4. 呼吸様運動
- 6 妊娠高血圧症候群の栄養管理で正しいのはどれか。
1. 塩分摂取は7～8g/日とする。
 2. 蛋白質摂取は「理想体重(kg)×2g/日」とする。
 3. 水分摂取は前日尿量に200ml程度加えた量とする。
 4. エネルギー摂取は非妊時BMI20の妊婦では「30kcal×理想体重(kg)」とする。
- 7 母親役割獲得過程からみた妊娠期の特徴はどれか。
1. 定位行動
 2. 没入感情
 3. 自己像の形成
 4. エンタテインメント
- 8 羊水量の診断で正しいのはどれか。
1. AFI 4 cm は羊水過少である。
 2. AFI 20 cm は羊水過多である。
 3. 羊水量 200 ml は羊水過少である。
 4. 羊水量 600 ml は羊水過多である。

9 38歳の経産婦。陣痛発来で入院した。現在、陣痛間欠3分、陣痛発作40秒である。子宮口全開大から30分経過したが、まだ児娩出に至らない。陣痛開始から16時間が経過している。

この時点の助産診断で正しいのはどれか。

1. 分娩停止
2. 微弱陣痛
3. 遷延分娩
4. 第2期遷延

10 多胎妊娠で正しいのはどれか。

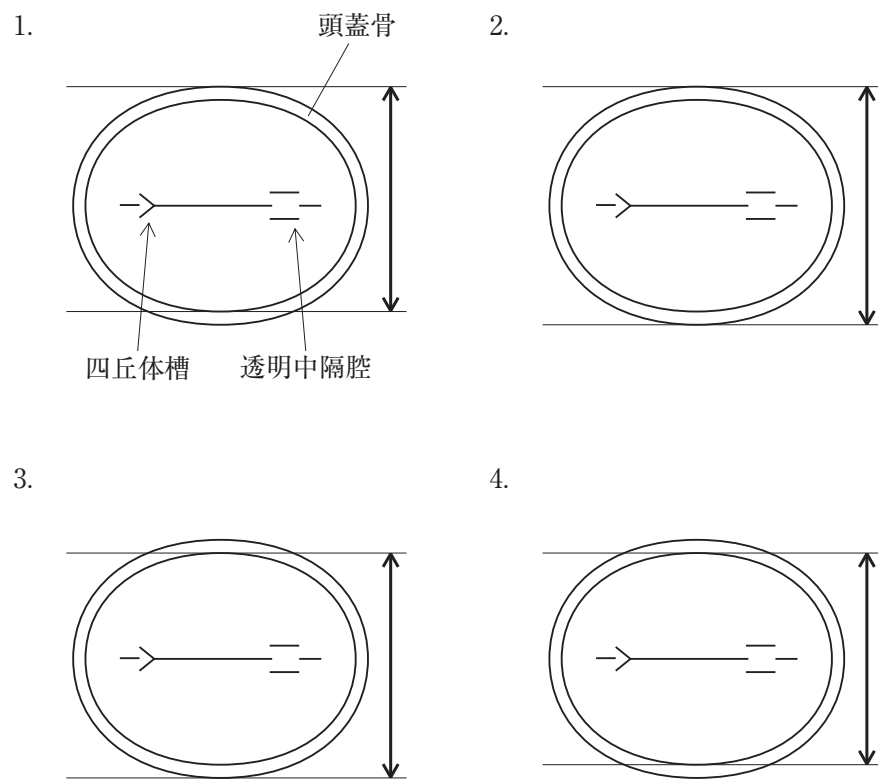
1. 羊水過少が起こりやすい。
2. 妊娠貧血が起こりやすい。
3. 一卵性双胎では二絨毛膜二羊膜にはならない。
4. 一卵性双胎は二卵性双胎よりも周産期死亡率が低い。

11 43歳の経産婦。産褥0日。身長156cm、体重70kg。妊娠30週から前期破水で入院し、長期安静臥床の後、35週で経膈分娩となった。分娩経過に異常はなかった。

ケアで適切なのはどれか。

1. 早期離床を促す。
2. 水分摂取を制限する。
3. シャワー浴を禁止する。
4. 高エネルギーの食事とする。

- 12 妊娠中・後期の腹部超音波断層法による胎児頭部横断面を図に示す。
 ただし、図の上方は母体の腹側、下方は背側である。
 児頭大横径(BPD)の計測位置で正しいのはどれか。



- 13 高校1年生の女子を対象に、健康教育を行うこととした。
 健やか親子21の指標を踏まえた内容で優先度が高いのはどれか。
1. 食育
 2. 肥満の予防
 3. う歯の予防
 4. 性感染症の防止

14 15歳の女子。高校生。2か月間月経がなく、市販の妊娠検査薬で調べたところ妊娠反応が陽性だったため、母親に伴われて受診した。妊娠8週と診断された。

助産師の対応で適切なのはどれか。

1. 妊娠を継続するよう促す。
2. 避妊カウンセリングを行う。
3. 母親のいない部屋で本人に話を聴く。
4. 親に最終決定してもらうように勧める。

15 緊急避妊ピルについて正しいのはどれか。

1. 妊娠阻止率は約90%である。
2. 性交後72時間以内に内服する。
3. 主に着床阻害によって避妊効果を発揮する。
4. 内服後は次回月経まで他の経口避妊薬は使用しない。

16 22歳の女性。最終月経の開始から10週3日が経過し、初めて受診した。月経は不順であったという。本日行った経膈超音波断層法による胎児計測の写真(別冊No. 1)を別に示す。

分娩予定日のアセスメントで最も適切なのはどれか。

1. 最終月経から計算された分娩予定日を用いる。
2. 最終月経から計算された分娩予定日を1週遅らせる。
3. 2週後に児頭大横径(BPD)によって分娩予定日を決定する。
4. 受診が遅かったため分娩予定日は決められない。

別 冊

No. 1

17 超音波断層法による推定児体重を「胎児体重の妊娠週数ごとの基準値」と比較して評価する場合、胎児発育不全(FGR)の診断基準で正しいのはどれか。

1. 基準値の -1.0 SD 値以下
2. 基準値の -1.5 SD 値以下
3. 基準値の -2.0 SD 値以下
4. 基準値の -2.5 SD 値以下

18 29歳の初産婦。妊娠40週0日。午前0時に陣痛発来し、午前4時に入院し、午後8時に破水した。内診で子宮口全開大、Station ± 0 、小泉門は2時方向に触れる。羊水所見は正常。胎児心拍モニタリングで基線は140 bpmで、基線細変動があり、早発一過性徐脈を認める。推定児体重3,300 g。陣痛間欠1分30秒、陣痛発作60秒。努責感はない。産婦はトイレまで歩行し排尿した。

ケアプランで適切なのはどれか。

1. 絶飲食とする。
2. 碎石位の姿勢を勧める。
3. 腹圧をかけるよう促す。
4. 継続的胎児モニタリングをしながら経過観察する。

19 骨盤位分娩の後続児頭娩出法はどれか。

1. 横8字法
2. Bracht(ブラハト)法
3. Müller(ミュラー)法
4. Veit-Smellie(ファイト-スメリー)法

20 産褥期における正常な子宮復古状態はどれか。

1. 産褥7日で赤色悪露が排出される。
2. 産褥2週で子宮底が恥骨結合と臍の間にある。
3. 産褥6週で外子宮口が閉鎖する。
4. 産褥8週で子宮の大きさが手拳大である。

21 正期産で第1子を出産し、1か月健康診査に来院した女性。母乳哺育を行っており、母子ともに健康状態は良好である。

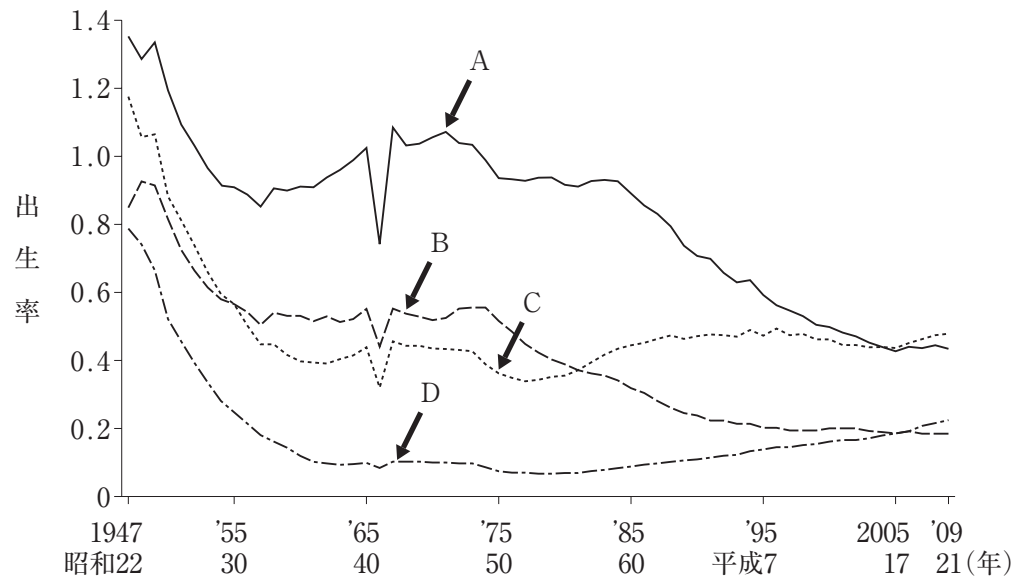
保健指導で適切なのはどれか。

1. 入浴はまだできないと説明する。
2. 避妊にはコンドームの使用を勧める。
3. Kegel〈キーゲル〉体操の中止を勧める。
4. 推定エネルギー必要量に550 kcal/日を付加して摂取するよう説明する。

22 新生児の先天性聴覚障害で正しいのはどれか。

1. 発生頻度は出生10,000人当たり1、2人である。
2. 日本では聴覚スクリーニングは90%以上の新生児で行われている。
3. 自動聴性脳幹反応〈AABR〉で異常が出た場合は耳音響放射〈OAE〉法を行う。
4. 生後6か月までに治療を開始すると言語発達は良い。

23 日本における20～39歳の母の5歳ごとの年齢階級別出生率の推移を示す。



30～34歳に該当するのはどれか。

1. A
2. B
3. C
4. D

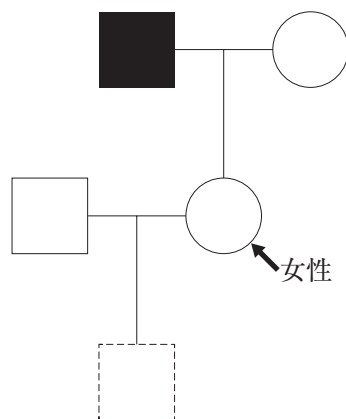
24 乳児家庭全戸訪問事業(こんにちは赤ちゃん事業)の根拠となる法律はどれか。

1. 児童福祉法
2. 母子保健法
3. 地域保健法
4. 次世代育成支援対策推進法

25 助産所の運営管理で正しいのはどれか。

1. 助産所での妊婦健康診査は公費負担の対象とならない。
2. 母性健康管理指導事項連絡カードを記載することはできない。
3. 分娩を取り扱わない場合でも嘱託医を確保しなければならない。
4. 嘱託医の書面による包括的指示があれば処方箋医薬品を購入できる。

26 血友病 A の父をもつ既婚の女性。最近、妊娠が判明した。女性、その母親および女性の夫は血友病 A を発症していない。女性の家系図を示す。



出生した児が男児であった場合、この男児が将来的に血友病 A を発症する確率はどれか。

1. 0
2. $\frac{1}{8}$
3. $\frac{1}{4}$
4. $\frac{1}{2}$
5. 1

27 在胎 38 週、3,100 g で出生した児。母親が授乳禁忌である薬物を内服していたため母乳は止め、出生した日から人工乳を哺乳していた。日齢 1 にビタミン K₂ シロップ剤を内服した。日齢 2。血便を認める。呼吸状態や哺乳力に異常を認めない。便の検査で好酸球の集積を認める。

血便の原因として最も疑われるのはどれか。

1. 新生児メレナ
2. 母体血の嚥下
3. 急性胃粘膜病変
4. ミルクアレルギー
5. 新生児壊死性腸炎

28 33 歳の初産婦。妊娠 38 週。4,100 g の児を出産した。分娩後 4 時間、歩行の際に、恥骨部に疼痛を感じたことを助産師に訴えた。

幅広ベルトを固定する高さの目安で正しいのはどれか。

1. 臍
2. 上前腸骨棘
3. 腸骨稜
4. 大転子
5. 第 5 腰椎

29 在胎 39 週、3,200 g で出生した児。出生直後から全身性のチアノーゼを認めるが、明らかな外表奇形はない。胸腹部エックス線写真(別冊No. 2)を別に示す。

最も疑われる疾患はどれか。

1. 胎便吸引症候群
2. 呼吸窮迫症候群
3. 総肺静脈還流異常
4. 先天性横隔膜ヘルニア
5. Fallot<ファロー>四徴症

別 冊

No. 2

30 子宮内膜症について正しいのはどれか。2つ選べ。

1. 卵巣に好発する。
2. 発症は 40 歳以降に多い。
3. 治療法には低用量ピル療法がある。
4. 症状の変動は月経周期に一致しない。
5. プロゲステロンに依存する疾患である。

31 妊娠中の正常な母体の全身変化で正しいのはどれか。2つ選べ。

1. 血液凝固因子は増加する。
2. 呼吸性アシドーシスに傾きやすい。
3. 空腹時血糖は非妊時よりも高くなる。
4. 噴門部の括約筋の緊張が低下しやすい。
5. 右側よりも左側の尿管拡張が好発する。

32 正常な産道通過機転で正しいのはどれか。2つ選べ。

1. 骨盤入口面の縦径と矢状縫合とは一致する。
2. 児頭は大斜径を最大周囲径として骨盤入口面を通過する。
3. 先進部が坐骨棘間線まで下降すると児頭は固定する。
4. 第2回旋では小泉門は後方に回旋する。
5. 第3回旋時には児頭は反屈する。

33 過期妊娠について正しいのはどれか。2つ選べ。

1. 羊水量は増加する。
2. 巨大児となる頻度が高い。
3. 子宮胎盤循環血流は増加する。
4. 出生児の全身に胎脂が付着している。
5. 周産期死亡率は正期産の2倍以上である。

34 絨毛膜羊膜炎で正しいのはどれか。2つ選べ。

1. 羊水過多の原因となる。
2. 早産の原因の約10%を占める。
3. 確定診断は病理組織診断で行う。
4. 新生児溶血性疾患の原因となる。
5. 子宮頸管炎の上行性感染が原因である。

35 Barker, DJ〈バーカー〉仮説において、胎児期の栄養障害が原因で将来的に発症のリスクが増加する疾患はどれか。2つ選べ。

1. 糖尿病
2. 肺気腫
3. 悪性新生物
4. 統合失調症
5. 急性心筋梗塞

36 前置胎盤に合併しやすいのはどれか。2つ選べ。

1. 妊娠高血圧症候群
2. 妊娠糖尿病
3. 胎位異常
4. 癒着胎盤
5. 子宮破裂

37 30歳の初産婦。妊娠41週で入院し、オキシトシンの点滴静脈内注射によって分娩誘発を受けている。胎児心拍陣痛図(別冊No. 3)を別に示す。内診所見は子宮口8 cm 開大、展退度80%、Station -1、頭位、未破水である。

行うべき処置はどれか。2つ選べ。

1. 導尿
2. 体位変換
3. 人工破膜
4. 努責の誘導
5. オキシトシンの点滴静脈内注射の中止

別冊

No. 3

38 在胎28週、1,200 gで9月に出生した極低出生体重児。後遺症はなく、生後2か月で退院した。

退院後の感染症予防の対策として適切なのはどれか。2つ選べ。

1. 抗菌薬の内服を行う。
2. RSウイルスの予防接種を行う。
3. ワクチンの接種量を正期産児と等量とする。
4. インフルエンザワクチンを12月中に接種する。
5. 生ワクチンの接種は修正月齢6か月になるまで行わない。

39 次世代育成支援対策推進行動計画策定指針に示されているのはどれか。2つ選べ。

1. 親の視点
2. 子どもの視点
3. サービスの量の視点
4. 次世代の親づくりという視点
5. 家族内の自助努力という視点

40 産科医療補償制度で正しいのはどれか。2つ選べ。

1. 助産所は加入できない。
2. 出生体重2,000g以下の新生児が対象である。
3. 出生後に感染症で脳性麻痺になった児は対象に含まれる。
4. 分娩に関連して発生した脳性麻痺の再発防止を目的としている。
5. 補償対象の脳性麻痺の原因分析を行う第三者委員会が設置されている。

次の文を読み 41～43 の問いに答えよ。

22歳の初産婦。2年前に幻聴が出現し、統合失調症と診断された。1か月間の入院治療後、軽快退院し、その後は精神科に通院しながら向精神薬を内服している。妊娠38週で3,600gの男児を経膣分娩で出産した。羊水混濁(－)、Apgar〈アプガー〉スコアは1分後8点、5分後9点であった。現在、褥婦の状態は身体的にも精神的にも安定している。未婚で、実母との2人暮らしである。児の父親であるパートナーは出産に立ち会うなど協力的であった。

41 児は啼泣時に軽度の下顎のふるえがみられる。体温37.0℃、呼吸数50/分、心拍数140/分。呻吟や努力性呼吸はない。経皮的動脈血酸素飽和度〈SpO₂〉は98% (room air)である。

この児で最も気を付けなければならないのはどれか。

1. 頭蓋内出血
2. 離脱症候群
3. 新生児敗血症
4. 胎便吸引症候群
5. 新生児一過性多呼吸

42 褥婦は母乳哺育を希望している。

助産師の対応で最も適切なのはどれか。

1. 児の傾眠傾向に注意する。
2. 授乳は向精神薬の内服から1時間後とする。
3. 最初の1か月間のみ母乳哺育とする。
4. 授乳の期間中は向精神薬の内服を中止する。

43 褥婦は退院することとなった。

助産師の対応で適切なのはどれか。

1. 退院まで母児を分離して母体の安静を図る。
2. 市町村保健センターに退院後の支援を依頼する。
3. 児の養育権を褥婦の実母に移すよう褥婦に勧める。
4. 産科退院時に精神科病棟のある病院に入院するよう褥婦に勧める。

次の文を読み 44～46 の問いに答えよ。

27歳の女性。主婦。28歳の夫との2人暮らし。夫とともに不妊症の検査目的で受診した。結婚後2年間は避妊していた。子どもが欲しいと思い避妊を止めて3年たつが妊娠しないという。

44 月経周期は30日、持続は1週間。量は多めで最近月経痛が強い。慢性疾患の既往はない。23歳のときにクラミジア頸管炎で治療を受けた。実母は一度自然流産したことがある。2人の姉がおり、それぞれ2人の子どもを出産している。嗜好品は、たばこ10本/日、コーヒー5杯/日。身長160cm、体重61kg。持参した過去3か月間の基礎体温表では二相性を示し、高温相は14日続いていた。

アセスメントで正しいのはどれか。2つ選べ。

1. 不妊の原因となる病歴がある。
2. 無排卵月経の可能性がある。
3. 黄体機能不全がある。
4. 不妊症の家系である。
5. 嗜好品の摂取量に問題がある。

45 次の外来受診時に女性は検査結果を聞いた。精液検査に異常はなかった。頸管粘液検査は牽糸性が10cm。Huhner〈フーナー〉試験の結果、侵入した精子数は13個だった。超音波診断法で排卵前の卵胞の発育は18mm、子宮と卵巣とに形態の異常を認めなかった。子宮卵管造影で右卵管に比し左卵管が狭かった。ホルモン検査の結果は正常であった。

検査結果の評価で正しいのはどれか。

1. エストロゲンが子宮頸管腺に作用していない。
2. 抗精子抗体が存在する可能性が高い。
3. 左卵管での受精は不可能である。
4. 卵胞の発育は正常である。

46 女性は検査結果を聞き終わると「思い切って受診して良かったです。夫婦で、将来について真剣に話し合います」と話した。

女性の心理的特徴で正しいのはどれか。

1. 不妊かもしれないと気づき始める段階
2. 不妊の原因を受け止める段階
3. 治療に専念し始める段階
4. 治療から離れる段階

次の文を読み 47～49 の問いに答えよ。

37歳の初産婦。妊娠39週3日の午前1時に陣痛発来し、午前4時に入院した。入院時は陣痛間欠9分、陣痛発作30秒。内診で子宮口3cm開大、展退度60%、未破水であった。

47 産婦は午後1時ころから陣痛発作時に強い痛みを訴えるようになった。午後2時、陣痛間欠5～6分、陣痛発作40～50秒。内診で子宮口6cm開大、展退度80%、Station -1、矢状縫合が横径に一致している。産婦は疲れた様子で「痛い。あとどれくらいかかるのですか」と言う。

この時点の助産診断で正しいのはどれか。

1. 微弱陣痛
2. 遷延分娩
3. 正常経過
4. Friedman〈フリードマン〉曲線における潜伏期

48 午後8時、陣痛間欠3～5分、陣痛発作50秒。内診で子宮口7cm開大、Station ±0、大泉門は2時方向に触れる。

この時点の助産診断で正しいのはどれか。

1. 低在横定位
2. 後方後頭位
3. 前方後頭位
4. 前方前頭位

49 産婦は翌日午前2時に児を娩出した。羊水混濁があり、児の四肢末梢にチアノーゼを認める。児は出生直後に啼泣したが、呼吸は浅くやや速い。四肢の動きを認める。

新生児蘇生法ガイドライン2010に基づくこの時点の対応で正しいのはどれか。

2つ選べ。

1. 酸素投与
2. 血糖値測定
3. 口腔内吸引
4. 胸腹部エックス線撮影
5. 温めたタオルでの清拭

次の文を読み 50～52 の問いに答えよ。

30歳の初産婦。妊娠経過は順調であった。バースプランでは、夫の立会い分娩、出産直後からの母子同室および母乳哺育を希望していた。妊娠40週1日、夫が立会い、3,200gの女児を経膣分娩した。分娩所要時間は12時間、総出血量380g。会陰切開・縫合術を受けた。分娩後2時間の母児の経過は良好だったため、帰室して母子同室を開始した。

50 帰室後2時間が経過し、助産師が訪室すると褥婦は「会陰の傷がズキズキと痛いのですが大丈夫ですか」と訴えた。膣と外陰部の状態を観察したところ、創部に軽度の腫脹がみられたが離開や血腫はなかった。児はコットで覚醒している。

この時点の対応で最も適切なのはどれか。

1. 会陰部の冷罨法を行う。
2. 鎮痛薬は使えないと説明する。
3. 自然に痛みはなくなると説明する。
4. 児を添い寝させて気を紛らわせる。

51 褥婦は、産褥1日から2日にかけて1時間半から2時間おきに授乳をしていた。産褥2日の夕方、褥婦は「母乳が出ないのでなかなか赤ちゃんが寝てくれません。これからの育児に自信が持てません」と涙を浮かべている。褥婦の乳房は張り始めており、児の体重は3,000gで、吸啜状態は良好であった。

この時点の対応で適切なのはどれか。2つ選べ。

1. 母子同室を中止する。
2. 時間をかけて傾聴する。
3. 褥婦の疲れを緩和するケアを行う。
4. 混合栄養で育てていくことを勧める。
5. 産後うつ病のセルフチェックをするように促す。

52 産褥 6 日、褥婦は児とともに退院した。産褥 10 日の夕方、自宅から産科病棟に電話があり「今朝、悪露に混じって 3 cm ぐらいの血の塊が出ました。退院後は悪露は褐色で少量になっていたので心配です」と助産師に話した。

確認する内容で優先度が高いのはどれか。

1. 「動悸やめまいはありますか」
2. 「外陰部の痛みはありますか」
3. 「今も赤い悪露や血の塊が出ていますか」
4. 「外陰部を前から後ろに向かって洗い流していますか」

次の文を読み 53～55 の問いに答えよ。

35歳の初産婦。妊娠12週。助産所での分娩を希望して来院した。身長155cm、非妊時体重55kg。自宅で出産した友人の話を聞き、自然なお産に憧れをもったという。助産所には3名の助産師が従事し、助産所業務ガイドラインに基づいて管理している。嘱託医療機関は産婦人科と小児科を標榜している病院である。助産師は妊娠34週を過ぎた妊婦については必ず嘱託医療機関に経過を連絡することになっている。

53 助産所での出産についての説明で適切なのはどれか。

1. 「骨盤位分娩にも対応できます」
2. 「ご夫婦で合意していることが大切です」
3. 「妊婦健康診査はすべて助産所で行います」
4. 「妊娠42週を過ぎても自然に陣痛が来るまで待ちます」

54 妊娠34週0日。妊婦健康診査にて体重62kg、血圧124/72mmHg、脈拍72/分、整。尿蛋白(－)、尿糖(－)。胎児は第2頭位、推定児体重2,156g、胎児心拍数140bpm、羊水量正常、胎盤位置は前壁にある。GBS(－)。1日に数回の子宮収縮がある。内診で子宮口1cm開大、展退度40%、Station－3。妊婦と夫とは立会い分娩を希望している。

アセスメントで正しいのはどれか。

1. 正常経過である。
2. 胎児発育不全がある。
3. 切迫早産の徴候がある。
4. 妊娠高血圧症候群の徴候がある。

55 妊娠 38 週 2 日に前期破水で入院した。助産師は助産所での分娩の準備を始めた。

今後の分娩経過で嘱託医療機関への搬送を検討すべき状況はどれか。

1. 破水後 12 時間を過ぎても陣痛発生しない。
2. 分娩第 2 期に早発一過性徐脈がみられる。
3. 分娩第 2 期に入って 2 時間以上経過している。
4. 児娩出後 15 分経過しても胎盤が娩出されない。

